

ナルトみかん復権へ

淡路島原産のナルトみかん(鳴門オレンジ)生産者でつくる「淡路オレンジの会」(山口章光代表)が、このほど「兵庫県認証食品」としての登録を県に申請した。県内固有種の唯一の

果樹で、かつては贈答用として全国に出荷していた高級かんきつ類。名産品の地位復活を目指し、生産者たちは期待を寄せている。

(石田雅志)

生産者の会 県認証食品に申請

淡路市

ナルトみかんは江戸時代には栽培が始められ、阿波藩主が鳴門海峡にちなんで名付けたとき

生産の先進地視察を重ねてきた。販売ルートも模索し、今では産地直送を

各地に広まり、戦後の最盛期には淡路島内のかんきつ類の四割にあたる約二百畝で栽培された。しかし、酸味の強さや食べにくさなどで次第に敬遠され、他品種に転換する生産者が相次いだ。近年の栽培面積は約十七畝にまで激減している。

しかし香りのよさや果汁の多さに根強いファンも少なくないことから、

淡路市内の生産農家らが約十年前に同会を結成。和歌山や四国などミカン



大きな実をつけ、収穫期を待つナルトみかん＝淡路市志筑

大部 明舞団地に活動拠点

学を学ぶ福井翔悟さん(三)「垂水区名谷町」は「実際に来てみると、お

版画の魅力展 7日から開催

姫路市立美術館

姫路市立美術館(同市本町)は二月七日(三月八日、開館二十五周年記念企画展「版画の魅力」を開く。収蔵品約三千五百点のうち約千七百点を占める版画作品から、ゴヤ、ピカソ、横尾忠則ら著名作家約二十人の約百二十点を展示する。

「コレクション」でたどる姫路市立美術館の二十年(三回シリーズ)の第二弾。ムンクの版画



「橋の上の少女たち」など三点や、大野麥風の「天日本魚類画集」から「マダイ」、川西英の「サーカス」なども並ぶ。

期間中は午後二時から、木版(凸版)▽銅版(凹版)▽リトグラフ(平版)▽シルクスクリーン(孔版)の四つの技法

年寄りが多い印象を受けた。地域の人と知り合いながら、決まった枠にとらわれずに活性化策を考えたい」と話していた。

被災体験聞き取り

社協職員ボランティア研修

県内の社会福祉協議会職員を対象した災害ボランティア研修が三十日、神戸市内であり、参加者は、阪神・淡路大震災の被災者から震災体験や現

在の生活について話を聞いた。

災害発生時にボランティアセンターが設置される各市町村社協で調整にあたる職員向けに、ひょう

活動は今春以降、約五十人の学生が参加して本格化する見込み。明舞団地周辺にある他大学の学生の受け入れも検討する。(永田憲亮)

三田市社長の小前琢「直接、知らない」と

「平時か

め、社協の